アトミクラブ通信　　ＮＯ．１７５　２０２１年 7月

皆さま　こんにちは

毎年のことですが、鬱陶しい梅雨のこの時季、いかがお過ごしでしょうか。今年の梅雨は雨の量も多く、日によっては突然に暗くなり、大雨や雷・強風によってランニングを中断して雨の当たらない所に逃げ込むことも何回かありました。早く梅雨明けを待ちたい所ですが、明ければ明たで猛暑が待っています。体調を崩さないよう注意をしながらこの梅雨と夏を乗り切り、秋に臨みたいものです。

■ アトミクラブの練習会はこの間（5/1～6/30）まで実施できたのは緊急事態宣言延長もあって「夢の島競技場」で６月２４日に行った１回だけでした。夢の島の練習会も「まん延防止措置期間中」ということで午後８時には施設を出なければならないので本練習は７時半過ぎくらいまでの超時短練習会になったことでした。１０００mインターバルを４本～７本、本練習時間で３５分程度と物足りなさが残る練習会でした。それでも６０人から７０人くらいの参加人数だったでしょうか。今後、７月に入ってもオリンピックが開幕するまでの数回は感染防止に留意しつつ、同様な形で時短練習会を行うつもりです。ご理解いただきたく思います。

さて、五輪・パラ開催期間中の練習会の取り組みは練習の場が大会関連の施設として提供され使えない所が多いので、アトミクラブとして、この期間（７月２３日～９月５日）は練習会を行いません。東京で開かれるスポーツと平和の祭典を、そして東京に集結する世界のトップアスリートの情熱と技に敬意を払い、テレビ観戦になると思いますがしっかりこの目に焼き付けておこうと思います。たいへん申し訳ありませんが、この期間中は有志によるミニ合同練習か個人の自主練習で乗り切っていただくことになります。よろしくお願いいたします。

■ 鬱陶しいといえば新型コロナの感染拡大がこの一年半以上、我々の頭の上に重くのし掛かっています。昨年１月、突然のように、中国の武漢から発せられた新型コロナウイルスの感染拡大のニュースを聞いて以降、いずれ収束に向かうだろうと誰もが信じて疑わなかった当初からおよそ１年半以上経過しました。メディアでも連日コロナの感染拡大の様子を取り上げていますが収束に向かうのはまだ先のようです。

新型コロナは日本でも感染拡大と縮小の波をもう４回ほど繰り返しているでしょうか。収ってきたらまた再拡大とまるでイタチごっこをしているようです。今年３月から始まった医療従事者のワクチン接種、続いて高齢者への接種も５月中旬から本格化し、接種の進み具合も順調に推移していると聞きます。ここにきて感染者に占める割合が医療従事者、高齢者は減る傾向にあるとの報告もあるようです。接種は高齢者以外の世代でも始まりました。秋には希望するすべての国民に接種が終わるとの見方もあります。ですが６月２１日で解除された「緊急事態宣言」から「まん延防止措置」に至る段階を見る限り、また感染者の拡大の傾向にあるようです。今後、変異種はイギリス株からより感染力の強いデルタ（インド）株へと置き換わっていきそうです。まだまだ油断は禁物ですね。感染しないための基本＝３密を避け、マスク、手洗い、うがいの励行は外せない行為ですね。練習会担当としては、引き続き感染の状況を見守りながら練習会が実施できるのかを判断し、無理のない形で練習案を企画し告知してまいります。どうぞよろしくお願いします。

■ ６月２４日から２７日に亘って陸上の日本選手権が大阪市のヤンマースタジアム長居で行われました。４日間、テレビ中継があったのでアトミの練習会があった２４日を除き、しっ

かりテレビ観戦をさせてもらいました。今回の選手権はおよそ１ヶ月後に開幕を迎える「東京オリンピック」代表選考会も兼ねていて、どの種目でも白熱したレースが展開されました。

●まずは第２日目の２５日に実施された男子１００ｍのオリンピック代表３名を決める注目の決勝に注目が集まりました。日本選手権ではかってないほど日本短距離陣の充実ぶりを反映してか、１００ｍ９秒台を出した４名に標準記録を狙う選手たちが予選、準決勝を勝ち抜いて決勝に臨んできました。結果は多田修平選手（住友電工）が１０秒１５（追い風０．２メートル）で初優勝を果たし、初の五輪代表に決まりました。日本記録保持者の山県亮太選手（セイコー）も１０秒２７で３位に入り、３大会連続の代表を決めました。優勝した多田選手といえば、ここ数年、９秒台を出す選手のアシスト役といった立場におかれていました。これまでスタートを低い姿勢で先行し後半交わされてしまうパターンが多かったのですが、この日の決勝は６０ｍ過ぎまで低い姿勢を保ち、そのまま他の選手の追い上げを許さない、堂々とした走りでゴールしました。この間、他の選手の１０秒切りにも腐らず持ち味のロケットスタートに磨きをかけ精進してきた結果が日本人トップと五輪１００ｍ代表というご褒美を得たのでしょう。６月６日に布施スプリントで９秒９５の日本記録を出した山県選手も３位に入り代表入りを確実にしました。この２人を中心に組まれる男子４００ｍリレーはメダル獲得のチャンスがあり、どのような布陣で臨むのか、たいへん楽しみになってきました。２００ｍは小池祐貴選手（住友電工）がしっかりトップで走りきり代表を確実にしました。●大会３日目に「サンショー」と呼ばれる３０００ｍ障害がありました。若さの躍動が目を引きました。順天堂大学の三浦龍司選手です。自身の持つ日本記録を１秒４７更新して８分１５秒９９で見事、初優勝を果たしました。途中転倒というアクシデントがありながら、その転倒をスパートのきっかけにして前を行く２選手を交わして堂々、逃げ切りました。●大会最終日の男子１１０ｍハードルでも順天堂大学の泉谷駿介選手が１３秒０６の日本記録で走り五輪出場の内定を得ました。１３秒０６というタイムは今季世界３位のタイムに相当し、決勝に駒を進める可能性も秘めています。ハードリングの安定感と力感あふれるパワーを感じました。期待できますね。

●同じく障害種目の４００ｍハードルでも学生選手の活躍が目を引きました。法政大学の黒川和樹選手が粗削りながらも大器の片鱗を感じさせる力強い走りで堂々優勝、五輪代表に選出されました。まさに障害種目で若さの躍動を見た感のある日本選手権でした。●もう一つ付け加えるならば最終日の女子５０００ｍの広中璃梨佳選手の積極的な走りが目を引きました。同選手はすでに１万ｍで内定を得ていましたが、これまで５０００ｍではライバルの新谷選手や田中選手の後塵を拝していました。今レースではその悔しさを跳ね返すように同種目の優勝で代表内定をものにしました。●この４日間、久しぶりに日本陸上選手権が盛り上がりました。このままこの雰囲気で東京五輪へゴーといきたいですね。

■ ３月２５日に東京五輪・パラの聖火は福島Ｊビレッジを出発し、全国を廻って、もう東京の隣に位置する神奈川県（６月２８日現在）まできました。聖火のリレーは東京を含め残すところあと数県になりました。コロナ禍にあって開催か中止（延期）かで２分された世論の中にあって聖火だけは粛々と歩を進めていたんですね。７月２３日の五輪の開催まであと２０日余り、まさに東京での２回目の五輪開催が現実のものとなってきました。

ついこの間まで様々な競技で代表選考が進められてきました。リオの五輪・パラからおよそ５年、開催されるからには世界の範になるよう「安心で安全できる五輪・パラ」を実現させ、ぜひ

ともスポーツの持つ力を日本から世界に発信してほしいものです。

■ 例年９月初旬に実施している「菅平合宿」はコロナウイルスの感染を避けるため今年も行わないことにしました。予定されていた皆様には大変申し訳ありませんが、現在の状況に鑑み、苦渋の選択をいたしましたのでなにとぞご理解いただきますようお願いいたします。

菅平合宿は、これで２年続けての中止となります。残念ですが、いまは我慢、我慢の時ですね。

■＜練習会報告＞　２０２１年５月～６月の練習会の内容

５月　６日	緊急事態宣言延長により練習会中止
５月１３日	緊急事態宣言延長により練習会中止
５月２０日	緊急事態宣言延長により練習会中止
５月２７日	緊急事態宣言延長により練習会中止
６月　３日	緊急事態宣言再延長により練習会中止
６月１０日	緊急事態宣言再延長により練習会中止
６月１７日	緊急事態宣言再延長により練習会中止
６月２４日	夢の島競技場時短練習　１０００ｍインターバル　４本～７本